

# スマイルタイムズ

No.248

## 新薬の値段の値下げ

最近、マスメディアを賑わせているガン治療薬の「オブジーボ」は新薬開発にまつわる出来事として、その本質を突く要素があり、考えさせられます。

この薬は小野薬品工業が 15 年かけて開発し 2014 年 9 月、皮膚がん向けに発売しました。

1) 新薬開発の成功率は 3 万分の 1。全くバクチよりも悪い。そして 10 年以上の研究期間と数百億円の費用が必要とされます。

2) 日本の製薬会社の大手は売上高の 3 割を研究費に投じています。(1935 年アメリカのデュポンという会社は世界初の合成繊維ナイロンを造りましたが、基礎研究費は日本の繊維会社 1 社の売り上げを超えるものでした。)

3) 当初、治療困難な皮膚がんの患者は全国で想定 470 人ほどでしたので、1 年間の薬代は 3500 万円と設定しました。1 割負担で 350 万円/人です。

4) 所がこれが肺がんにも有効と分かり、こちらは想定患者数は 15000 人、この人達がこの薬を使うとなると膨大な社会保障費の増大になります。

5) さらに当薬は 20 種類以上のがんにも効くことが分かってきました。さあ、どうする。がん患者の大部分がこの薬を使い始めれば医療費は破たんします。

6) そこで厚労省は当初 25%の値下げを検討しましたが首相官邸はさらに 50%まで下げるように主導しました。薬価の値段を首相官邸が決めたわけです。外国からは薬の値段まで首相がきめるのか!と非難されそうなことをしました。

7) しかし、欧米の大手製薬会社(メガファーマ=売上高は小野薬品の 20~30 倍)に対抗するには日本の製薬会社に体力が必要です。時には儲け

平成 28 (2016) 年 11 月 28 日 (月) 発行

発行者 小浜市多田 2-2-1 中山クリニック 院長 中山 茂樹

<http://www.nakayamaclinic.jp/>

て貰う必要があります。

8) しかし、薬価が引き下げられても販売量が増加すれば採算は合う、と小野薬品は引き下がりました。そして「健康を守る製薬会社の務めとして受け入れる」とコメントしました。立派です。

## 反インフルエンザ運動

日本にも変な思想が浸潤し始めたようです。

この 11 月中旬、東京都文京区に居るとその 88 歳のばあさんを中年の女が訪ねて来ました。そして曰く「奥さんはもうインフルエンザの予防注射をされましたか?」、ばあさんはああ昨日済ましたというところ“遅かったか”と言いつつ 2 枚のパンフレットを手渡して「あれは良くありません。あの注射は打たない方がいいのです。」と言う。

そのパンフレットの主旨は次のようでした。

“母里啓子(もりひろこ)先生=国立医療保険医療科学院=がああワクチンは打たないで!ときっぱり言っています。”

そう言えばこの先生、そんな本を出しています。何かにつけて 100%効く薬ってないものです。それにしても年寄りの家を一軒一軒歩いてたった一人の書いた本を信じて、説いて回るなんて。何かを信じてしまう人間の怖さを感じました。(松井)

## インフル全国流行-本県 3 番目の多さ

11/26 の地元新聞の見出しです。厚労省はインフルエンザの今シーズンの全国的な流行が始まったと発表しました。2009 年に次ぐ 2 番目に早い始まりです。1 医療機関当たり全国平均 1,38 人。本県は同 3,50 人。全国で上位 3 番。皆さん上記の運動に惑わされずにインフル注射をお忘れなく。

… … … … … … …

(あ と が き) 1、当院のインフルの注射は 1 月末までやっています。ご利用下さい。2、ミニギャラリーは目下、山口栄二氏(若狭町)の油絵です。今年で 80 歳。まだ制作に余念がありません、